

第2章 佐川町の現状

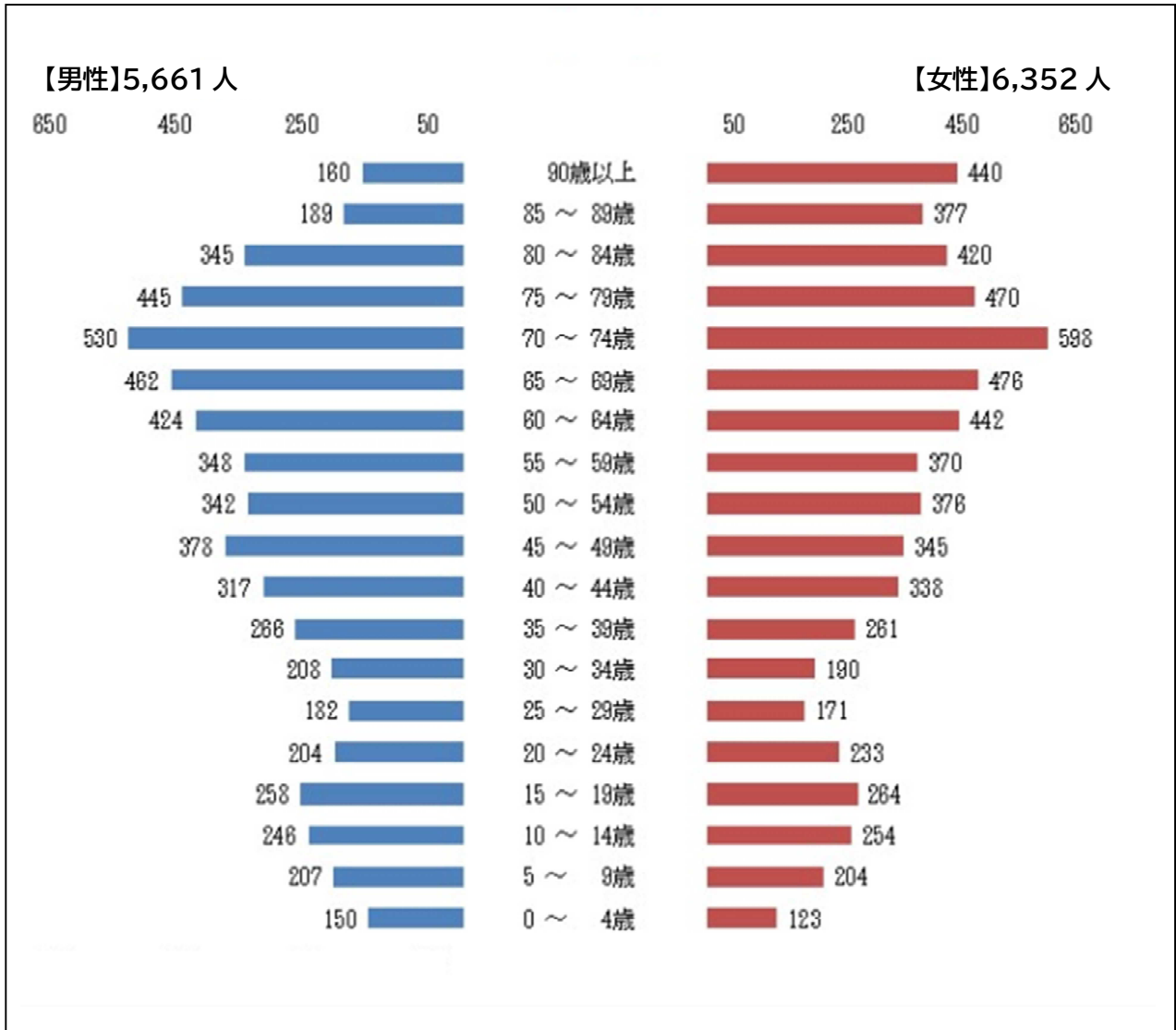
1. 人口構成・世帯数の状況

(1) 人口構成

2023（令和5）年12月末現在、佐川町の人口は、男性 5,661 人、女性 6,352 人で合計 12,013 人となっています。

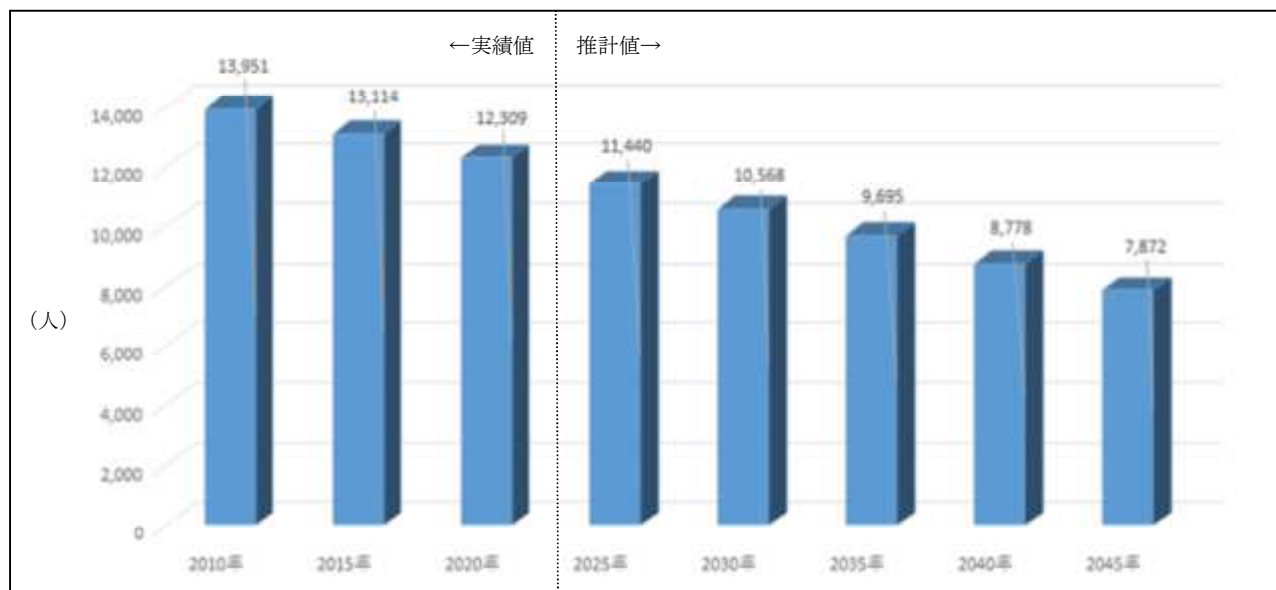
年齢階層別にみると、男女ともに「70～74 歳」が最も多くなっています。

■人口ピラミッド



出典：住民基本台帳 令和5年12月末現在

■総人口の推移【佐川町 2015（平成 27）年から 2045（令和 27）年】



出典：高知県健康づくり支援システム（国勢調査及び人口推計値（総数））

■年齢3区分人口割合推移

	2015 年	2020 年	2025 年	2030 年	2035 年	2040 年	2045 年
0～14 歳	11.5%	10.7%	10.7%	9.8%	9.3%	9.0%	8.7%
15～64 歳	50.8%	47.7%	45.6%	44.1%	43.1%	41.3%	40.0%
65 歳以上	37.7%	41.7%	44.2%	46.2%	47.5%	49.7%	51.3%
75 歳以上	21.4%	23.5%	27.7%	31.2%	33.2%	34.3%	34.7%

出典：国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」

■5地区別データ（第2次計画策定時との比較）

〈人 口〉

	佐川	斗賀野	尾川	黒岩	加茂
2023(令和 5)年 1 月末日	6,512 人	3,099 人	683 人	976 人	960 人
2017(平成 29)年 1 月末日	6,909 人	3,312 人	802 人	1,143 人	1,039 人

〈年少人口：0歳～14歳〉

	佐川	斗賀野	尾川	黒岩	加茂
2023(令和 5)年 1 月末日	714 人	331 人	40 人	66 人	91 人
2017(平成 29)年 1 月末日	862 人	389 人	72 人	111 人	111 人

〈生産年齢人口：15歳～64歳〉

	佐川	斗賀野	尾川	黒岩	加茂
2023(令和 5)年 1 月末日	3,355 人	1,557 人	273 人	431 人	457 人
2017(平成 29)年 1 月末日	4,063 人	1,960 人	456 人	637 人	594 人

〈老年人口：65歳以上〉

	佐川	斗賀野	尾川	黒岩	加茂
2023(令和5)年1月末日 (うち、75歳以上人口)	2,443 人 (1,407 人)	1,211 人 (672 人)	370 人 (210 人)	479 人 (281 人)	412 人 (212 人)
2017(平成29)年1月末日 (うち、75歳以上人口)	2,419 人 (1,376 人)	1,209 人 (663 人)	385 人 (234 人)	512 人 (295 人)	390 人 (209 人)

〈高齢化率：65歳以上人口÷人口〉

	佐川	斗賀野	尾川	黒岩	加茂
2023(令和5)年1月末日	37.51%	39.08%	54.17%	49.08%	42.92%
2017(平成29)年1月末日	31.35%	32.94%	42.60%	40.96%	32.40%

〈後期高齢化率：75歳以上人口÷65歳以上人口〉

	佐川	斗賀野	尾川	黒岩	加茂
2023(令和5)年1月末日	21.61%	21.68%	30.75%	28.79%	22.08%
2017(平成29)年1月末日	58.07%	56.93%	65.05%	61.27%	59.17%

〈出生数〉

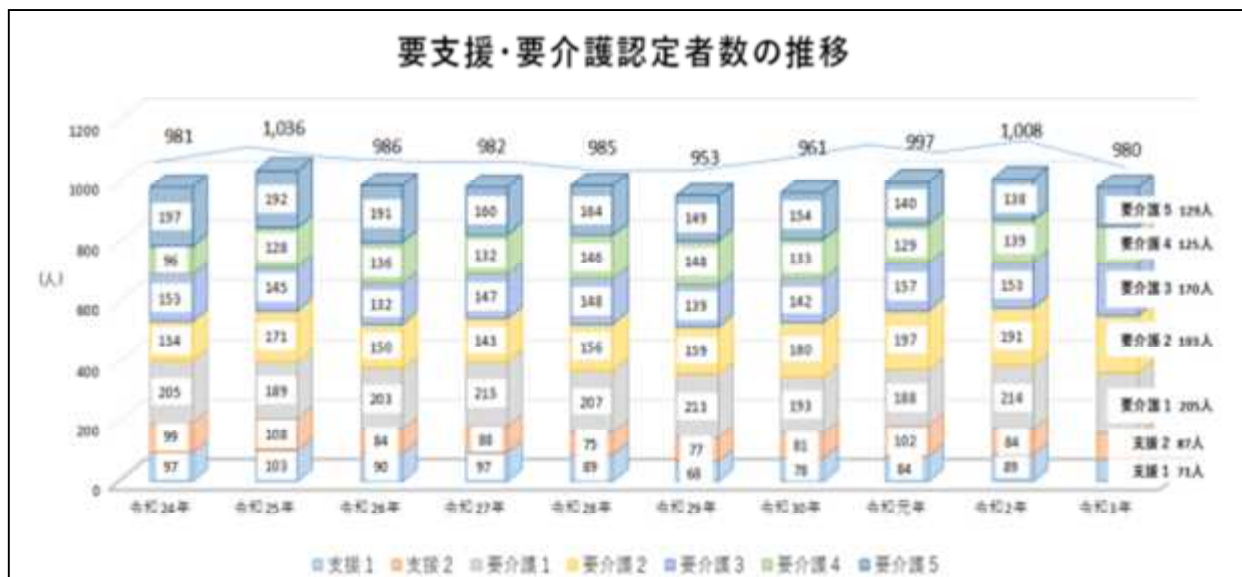
	佐川	斗賀野	尾川	黒岩	加茂
2022(令和4)年度	30 人	13 人	0 人	3 人	2 人
2016(平成28)年度	31 人	12 人	2 人	5 人	4 人

引用：住民基本台帳

2. 高齢者の状況

(1) 要支援・要介護認定者数の推移

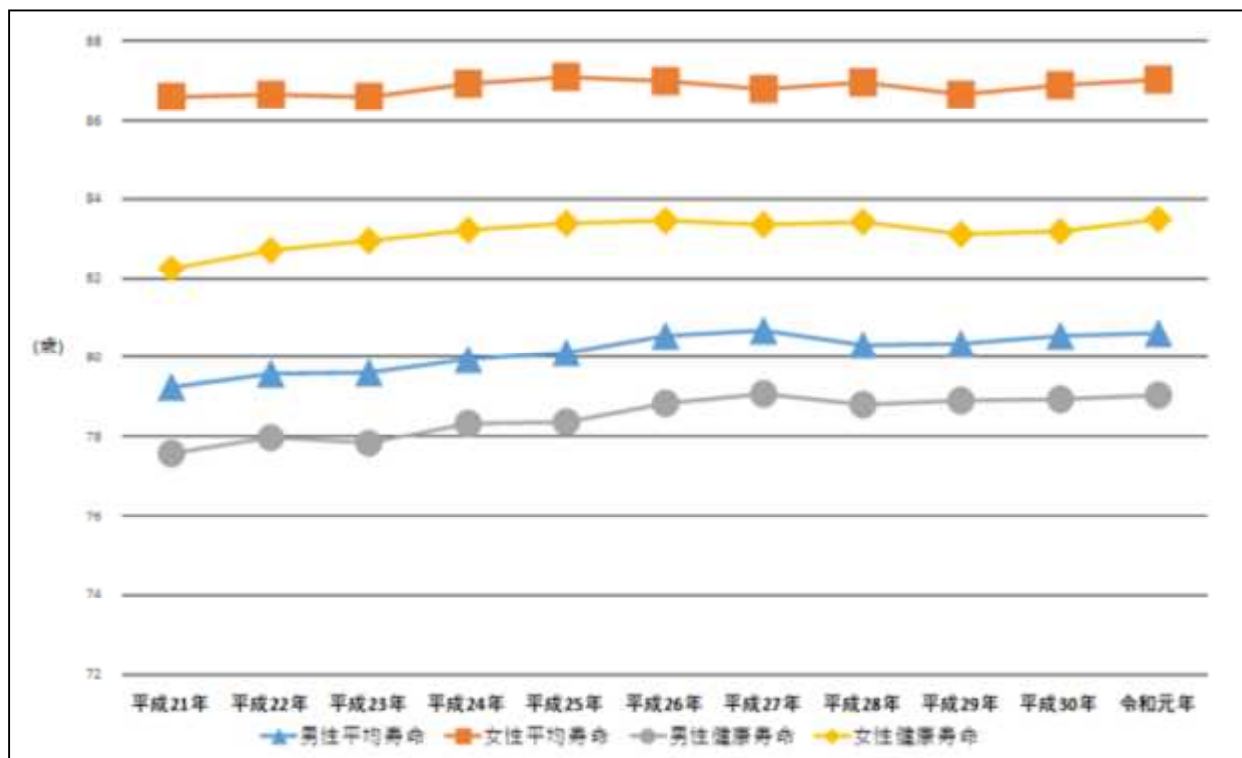
要支援・要介護認定者数の推移は、2012（平成24）年981人から2021（令和3）年980人となっており、1人減少しています。介護度別に見ると要介護2、3が増加傾向にあります。



引用：政府統計の総合窓口(e-Stat) 令和3年度介護保険事業状況報告（年報）

(2) 平均寿命と健康寿命

佐川町の平均寿命は、2019（令和元）年時点で男性が80.63歳、女性は87.03歳で、ゆるやかな上昇傾向です。また、佐川町の健康寿命（支援や介護を必要としない期間）は、男性が79.04歳、女性が83.49歳となっており、平均寿命と合わせてみると、男性では支援や介護を必要とする期間が1.59年、女性は3.54年となっています。



引用：高知県健康づくり支援システム

(3) 家族構成

【全 体】

○家族構成について、「夫婦2人暮らし（配偶者 65 歳以上）」が 41.1%で最も多く、次いで「一人暮らし」が 21.6%、「その他」が 15.1%となっています。

【性・年齢】

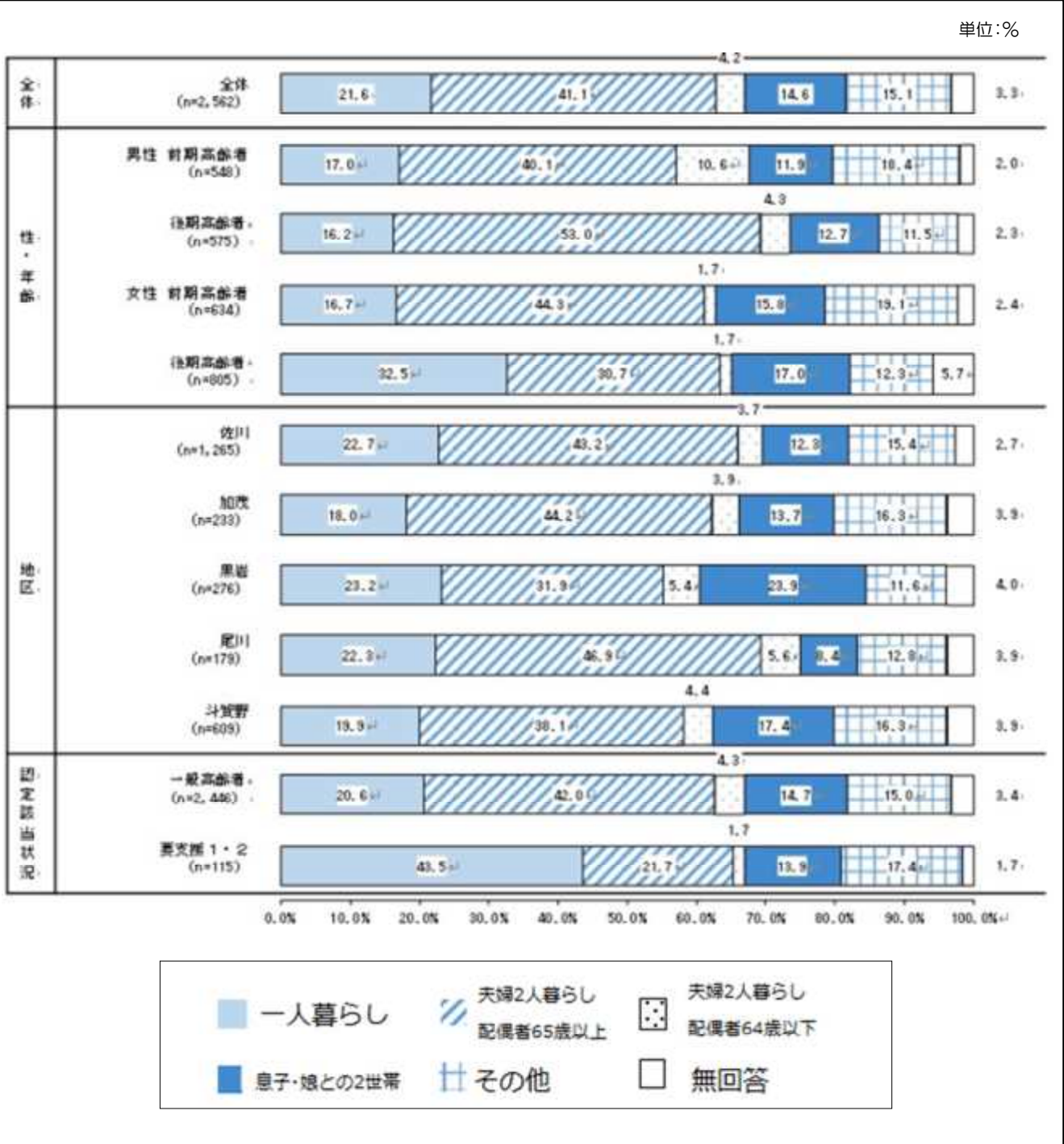
○「一人暮らし」は女性 後期高齢者が 32.5%と他の区分に比べて多くなっています。

【地 区】

○「夫婦2人暮らし（配偶者 64 歳以下）」は尾川が 5.6%、黒岩が 5.4%と他の区分に比べて多くなっています。

【認定該当状況】

○「一人暮らし」は要支援1・2が 43.5%と他の区分に比べて多くなっています。

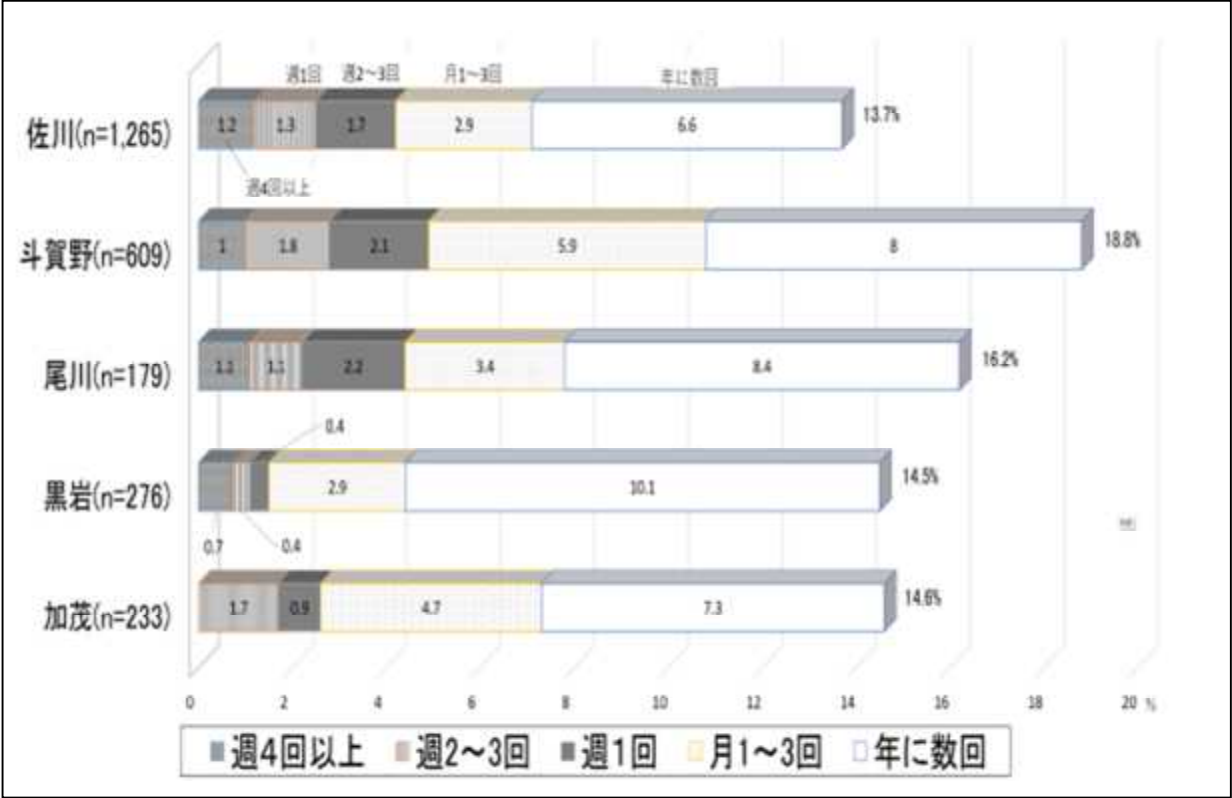


引用：介護保険ニーズ調査結果（令和5年3月）

(4) 地域での活動について

■ボランティアのグループ

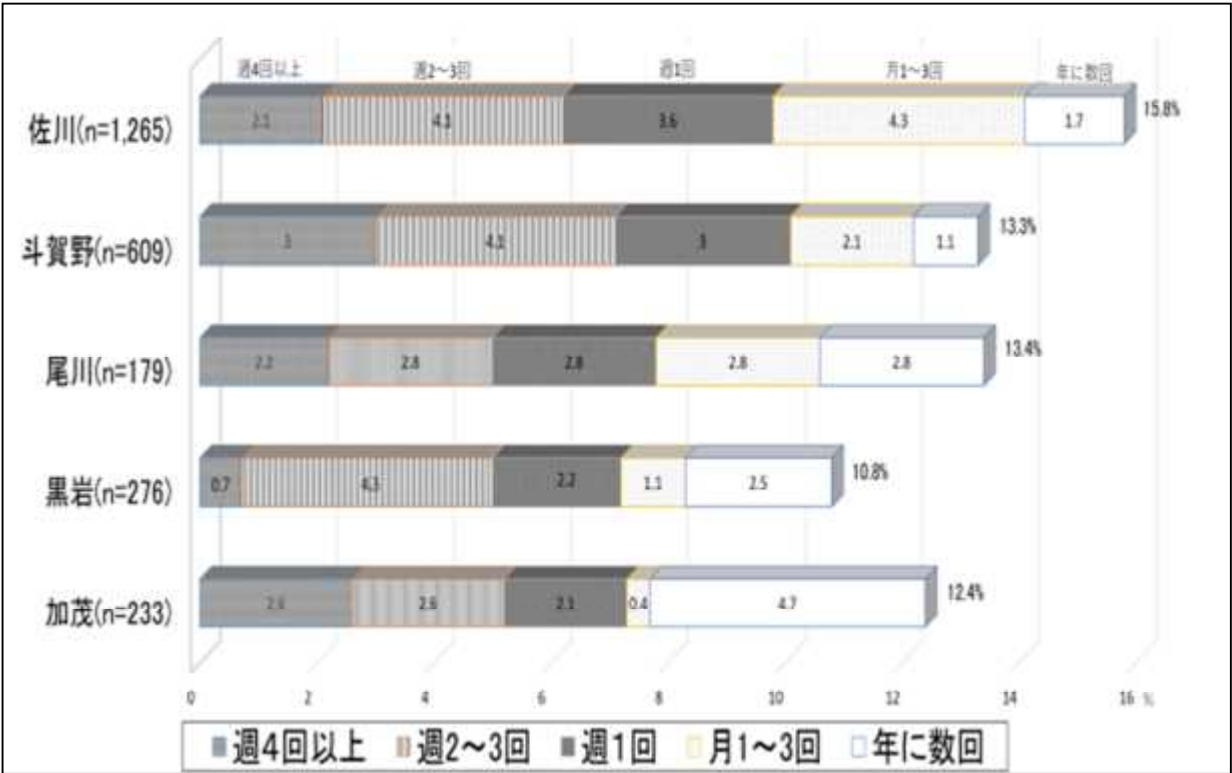
地区別に参加頻度をみると、斗賀野（18.8%）が最も高く、佐川（13.7%）が最も低くなっています。
「年に数回」を除いても、斗賀野（10.8%）の参加頻度が最も高くなっています。



引用：介護保険ニーズ調査結果（令和5年3月）

■スポーツ関係のグループやクラブ

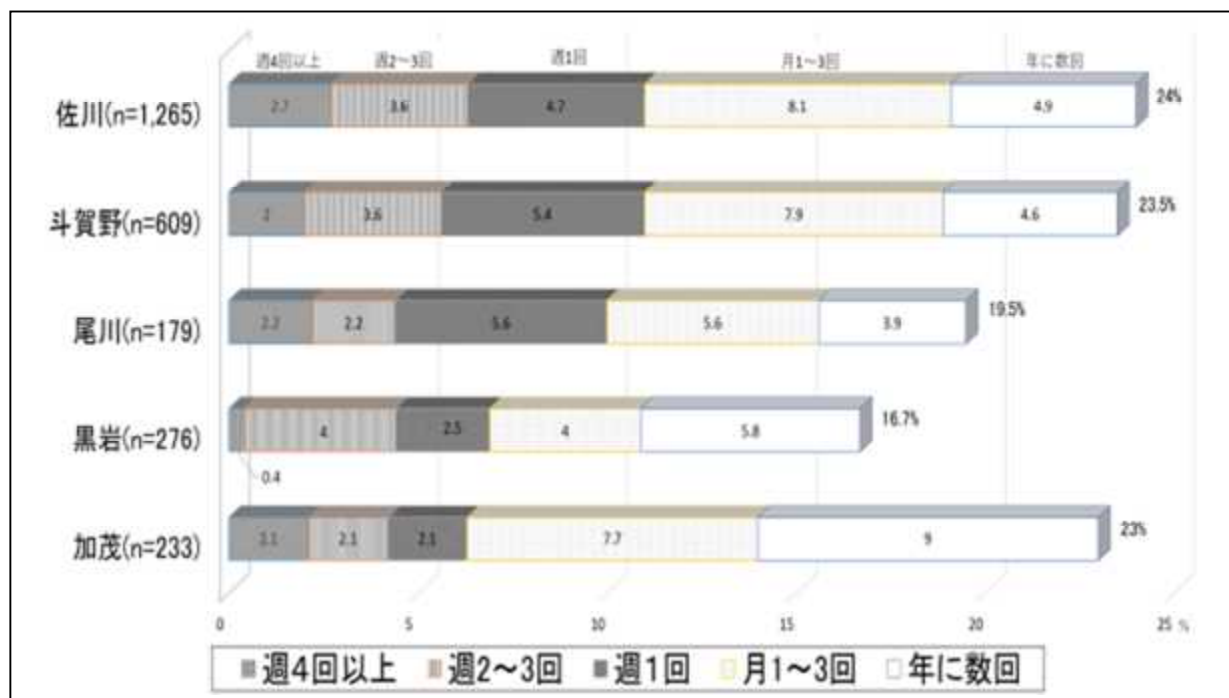
地区別に参加頻度をみると、佐川（15.8%）が最も高く、黒岩（10.8%）が最も低くなっています。
「年に数回」を除いても佐川（14.1%）の参加頻度が最も高くなっています。



引用：介護保険ニーズ調査結果（令和5年3月）

■趣味関係のグループ

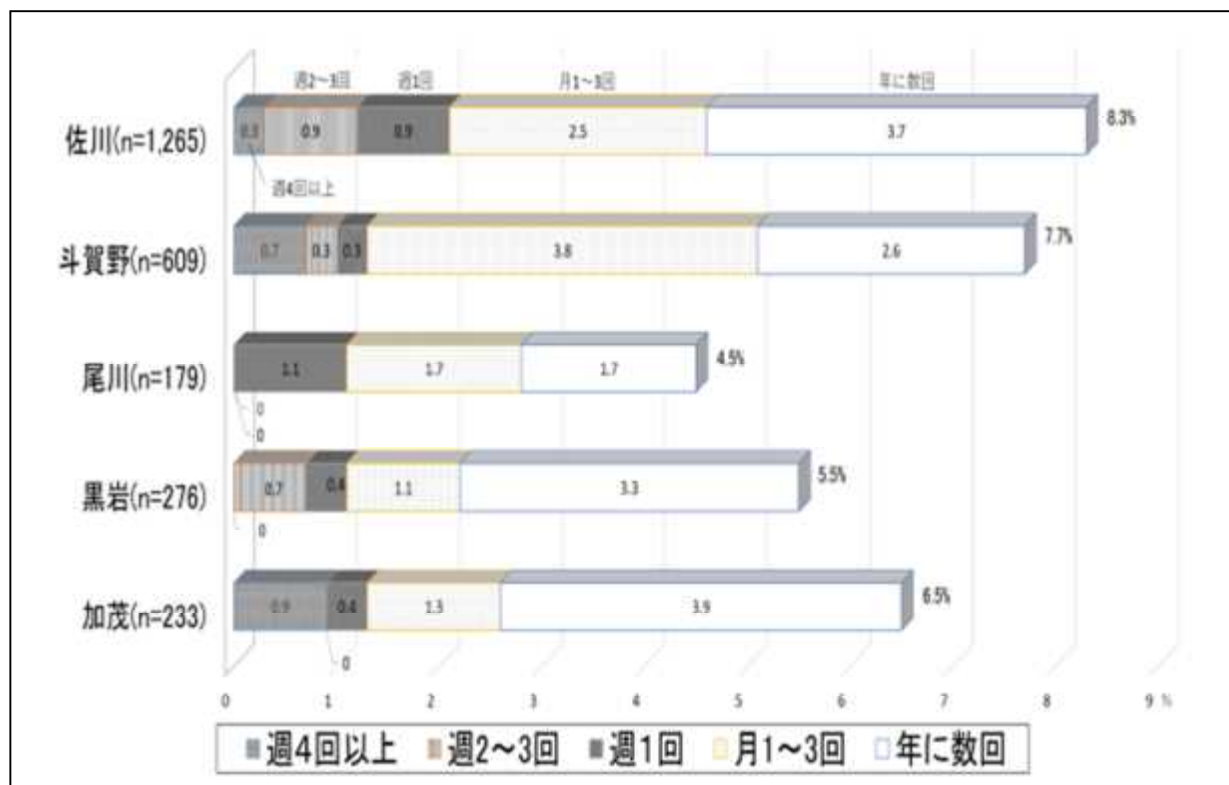
地区別に参加頻度をみると、佐川（24%）が最も高く、黒岩（16.7%）が最も低くなっています。「年に数回」を除いても佐川（19.1%）の参加頻度が最も高くなっています。



引用：介護保険ニーズ調査結果（令和5年3月）

■学習・教養サークル

地区別に参加頻度をみると、佐川（8.3%）が最も高く、尾川（4.5%）が最も低くなっています。「年に数回」を除いた場合は、斗賀野（5.1%）の参加頻度が最も高くなっています。



引用：介護保険ニーズ調査結果（令和5年3月）

(5) 運動習慣等について

■運動習慣の有無

【全 体】

○1 回 30 分以上の軽く汗をかく運動をしているかについて、「運動をしている」が 45.8%で最も多く、次いで「運動したい気持ちはあるが、取り組めていない」が40.2%、「運動ができない（心身の不調で運動制限があるなど）」が5.4%となっています。

【性・年齢】

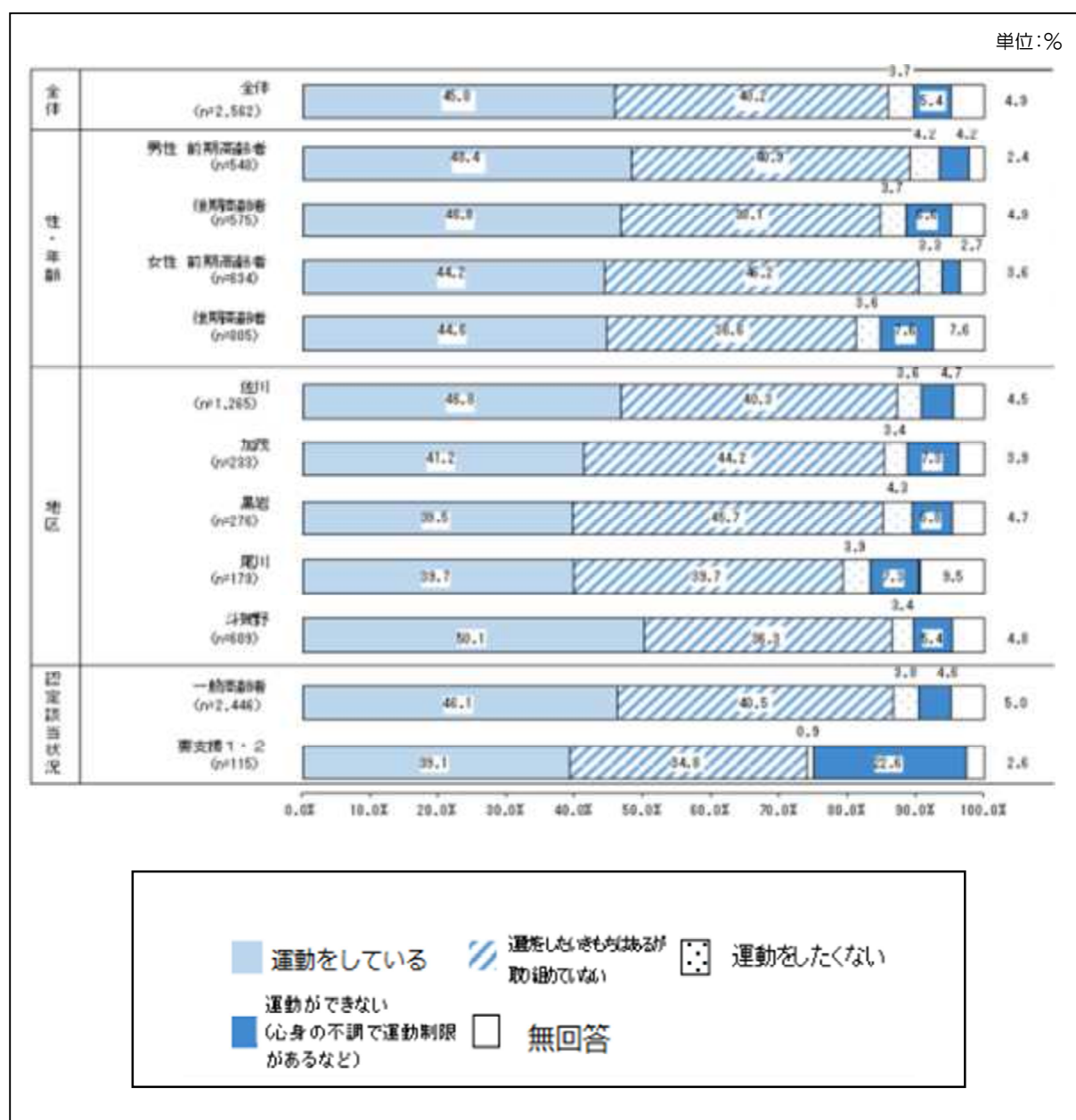
○「運動している」は男性 前期高齢者が48.4%、男性 後期高齢者が46.8%と他の区分に比べて多くなっています。

【地 区】

○「運動している」は佐川が46.8%、斗賀野が50.1%と他の区分に比べて多くなっています。

【認定該当状況】

○「運動している」は一般高齢者が46.1%、要支援1・2が39.1%となっています。



運動器の機能低下

以下の設問に対して5問中3問以上該当する場合は、運動器機能の低下している高齢者となります。

設 問	選択肢
階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか	できない
椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか	できない
15分位続けて歩いていますか	できない
過去1年間に転んだ経験がありますか	何度もある／1度ある
転倒に対する不安は大きいですか	とても不安である／やや不安である

【全 体】

○運動器の機能低下リスクについて、「該当」が18.5%、「非該当」が80.9%となっています。

【性・年齢】

○男女ともに後期高齢者では前期高齢者に比べて「該当」が多くなっています。

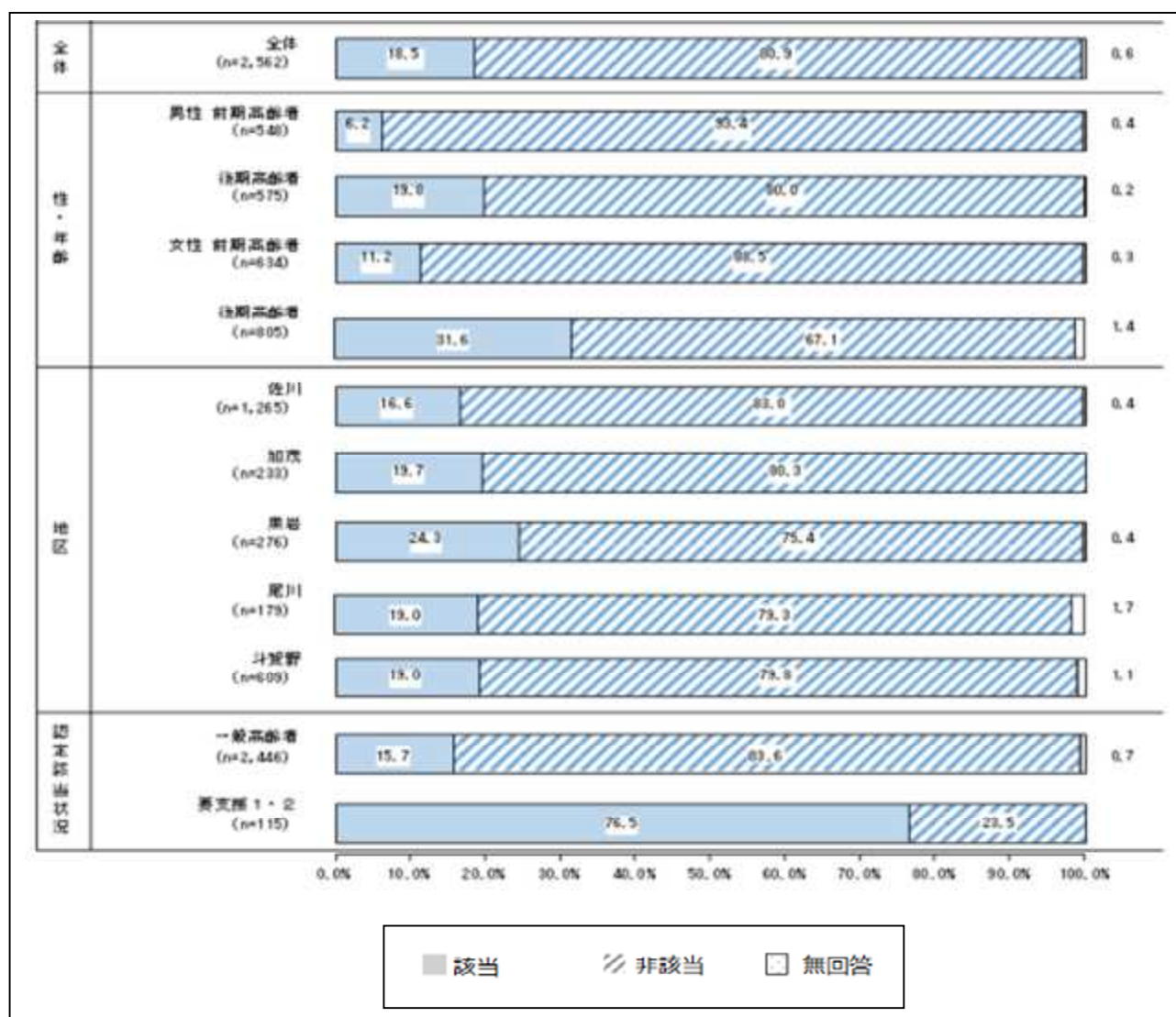
【地 区】

○「該当」は黒岩が24.3%と他の区分に比べて多くなっています。

【認定該当状況】

○「該当」は一般高齢者が15.7%、要支援1・2が76.5%となっています。

単位：%



引用：介護保険ニーズ調査結果（令和5年3月）

(6) 食事について

【全 体】

○1日2回以上主食・主菜・副菜3つそろえて食べる日は週に何日あるかについて、「ほとんど毎日」が70.2%で最も多く、次いで「週に4～5日」が13.3%、「週に2～3日」が8.4%となっています。

【性・年齢】

○「ほとんど毎日」は女性 前期高齢者が75.7%と他の区分に比べて多くなっています。

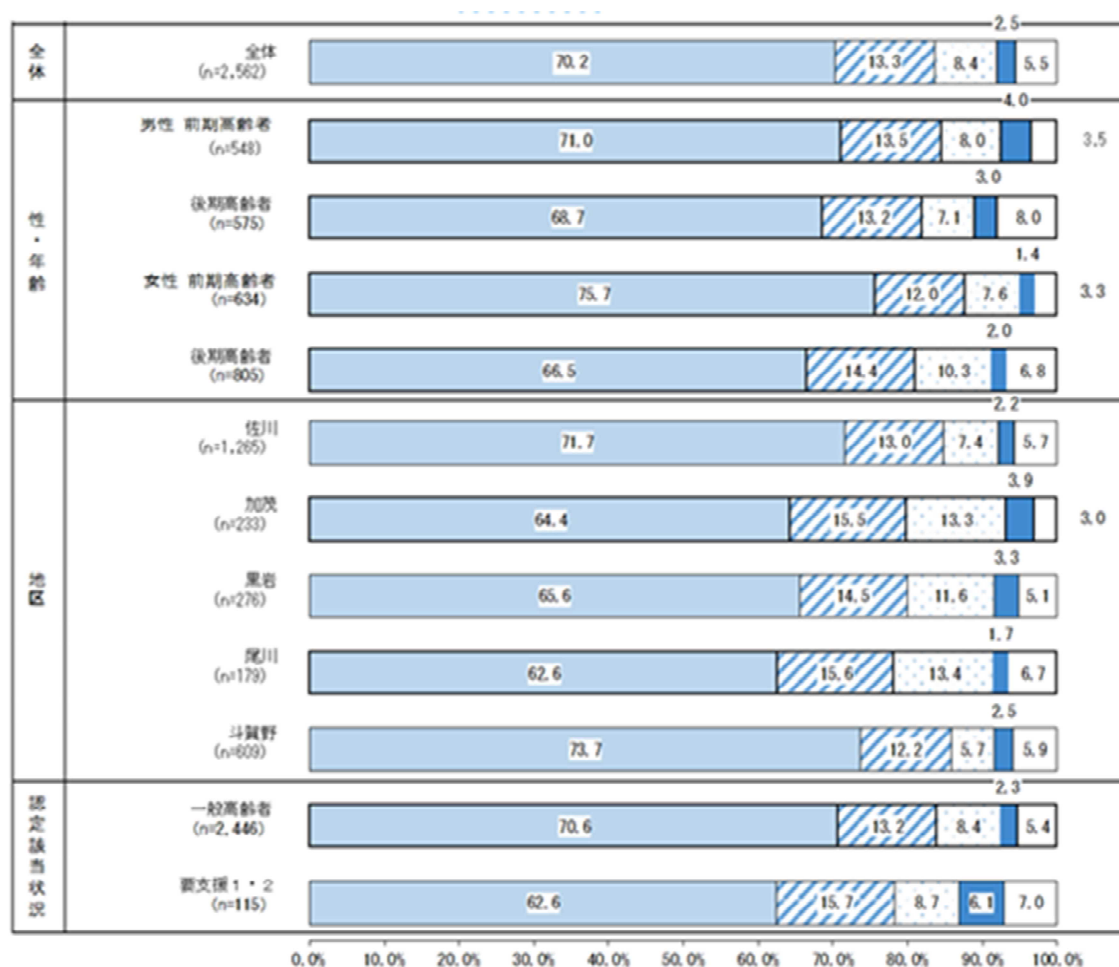
【地 区】

○「ほとんど毎日」は佐川が71.7%、斗賀野が73.7%と他の区分に比べて多くなっています。

【認定該当状況】

○「ほとんど毎日」は一般高齢者が70.6%、要支援1・2が62.6%となっています。

単位：％



■ ほとんど毎日 ▨ 週に4～5回 □ 週に2～3回
 ■ ほとんどない □ 無回答

引用：介護保険ニーズ調査結果（令和5年3月）

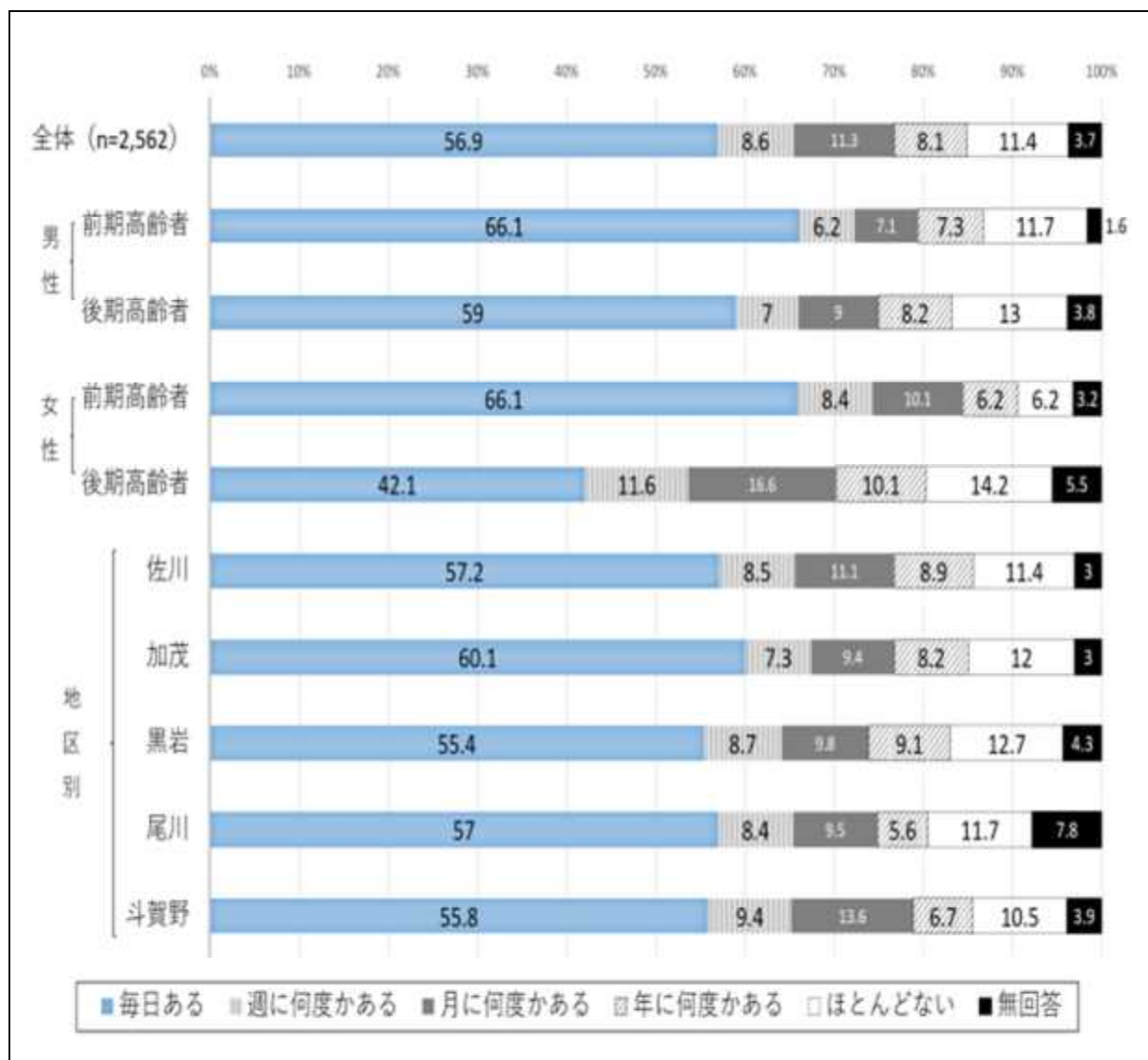
■孤食の状況

どなたかと食事を共にする機会の有無をみると、全体の56.9%は「毎日ある」と答えていますが、「年に何度かある」及び「ほとんどない」と答えた“孤食傾向のある方”も、19.5%を占めています。

性別・年齢別にみると、“孤食傾向のある方”は男性（21.2%）、女性（24.3%）共に後期高齢者が最も多くなっています。

“孤食傾向のある方”を地区別にみると、黒岩（21.8%）が最も多く、「月に何度かある」と答えた方も含めると、31.6%となっています。

単位：％



引用：介護保険ニーズ調査結果（令和5年3月）

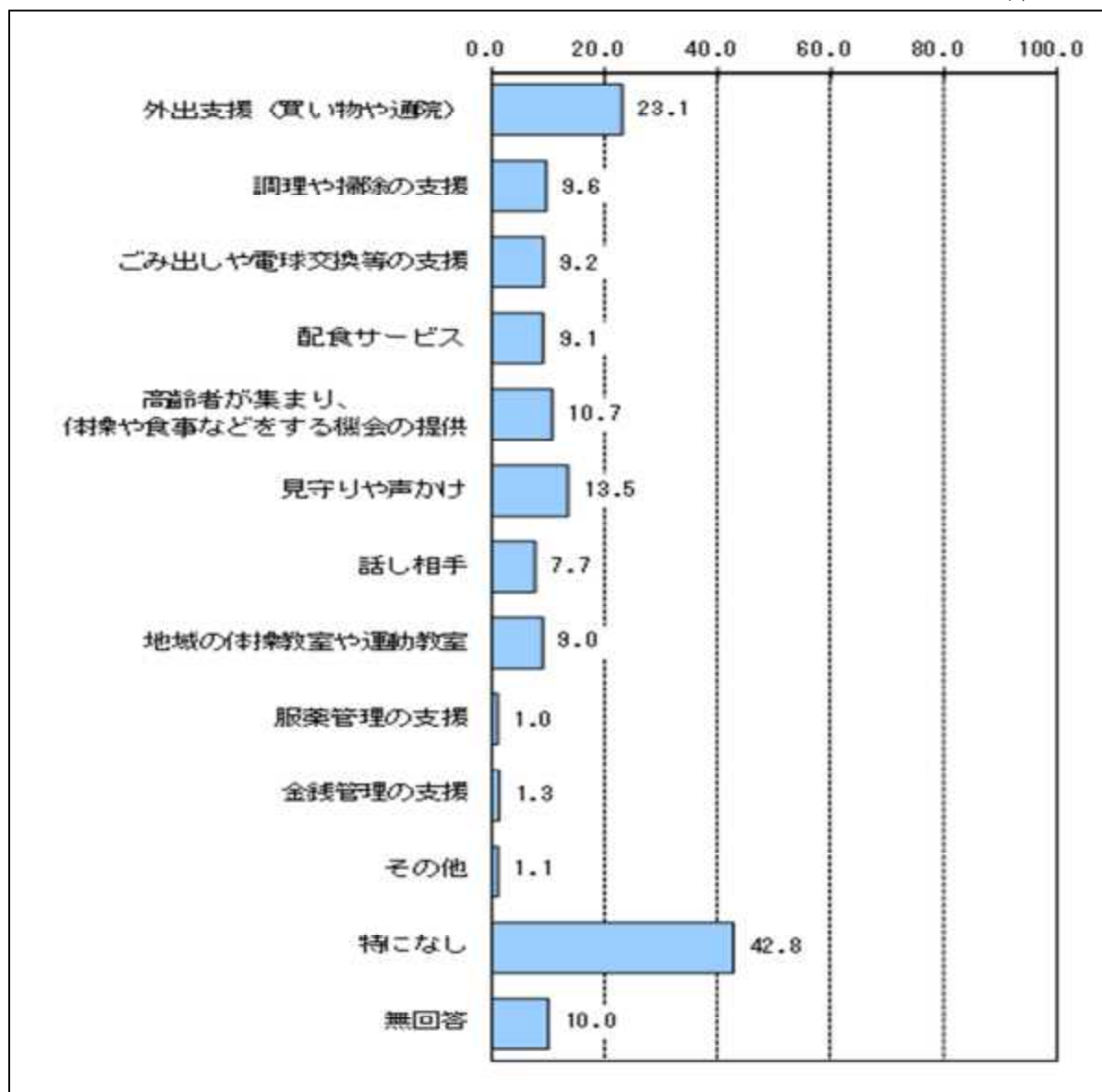
(7) 利用したいサービス

■利用したいサービス

現在若しくは今後、利用したいと感じるサービス・取り組みについてみると、「外出支援（買い物や通院）」が23.1%で最も多く、次いで「見守りや声がけ」13.5%、「高齢者が集まり、体操や食事などをする機会の提供」10.7%「調理や清掃の支援」9.6%の順となっています。

「特になし」も、42.8%と高くなっています。

単位：%



引用：介護保険ニーズ調査結果（令和5年3月）

3. 障害者等の状況

■身体障害者手帳・療育手帳・精神障害者保健福祉手帳の保有者数

	身体障害者手帳 (令和5年5月末)	療育手帳 (令和5年7月末)	精神障害者 保健福祉手帳 (令和5年7月末)	合 計
所持者数	757 人	129 人	118 人	1,004 人

■身体障害者手帳の種類別保有者数

障害の種別	人数	全体に占める割合
肢体不自由	354 人	47%
内部障害 (心臓・腎臓・呼吸器・膀胱又は 直腸・小腸・免疫・肝臓の機能障害)	286 人	37%
聴覚・平衡	58 人	8%
視 覚	54 人	7%
音声・言語・咀嚼	5 人	1%
合 計	757 人	100%

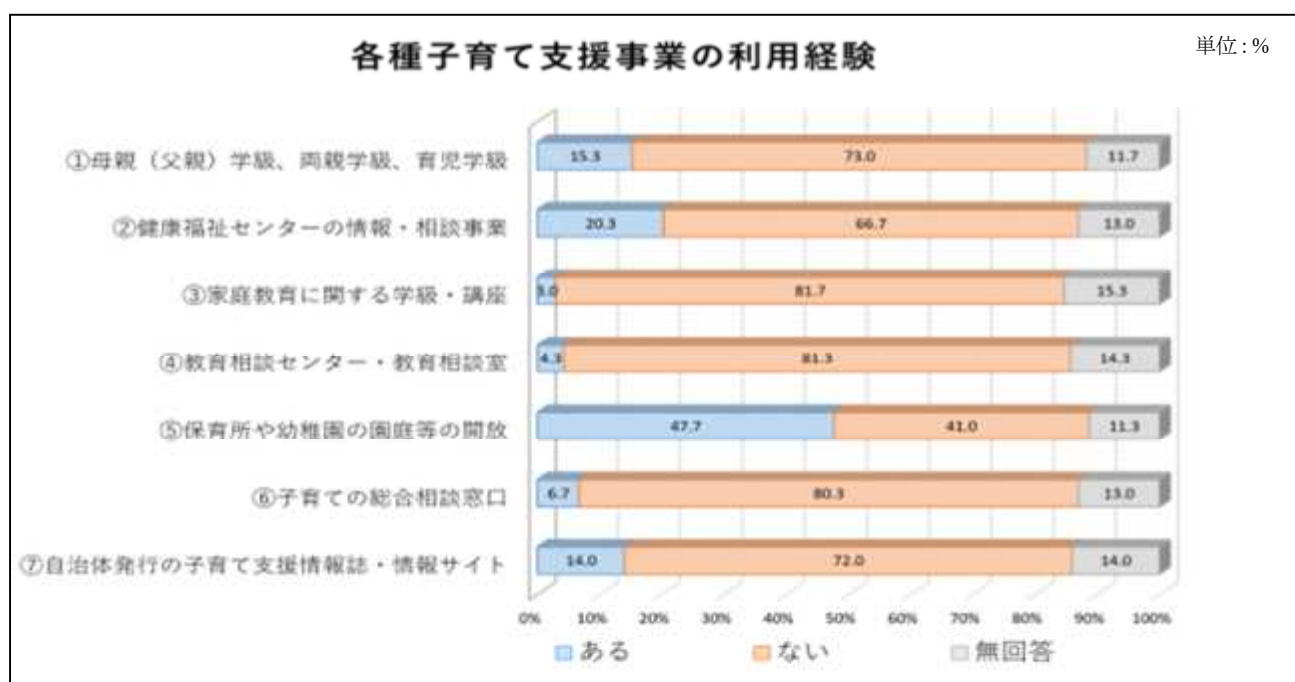
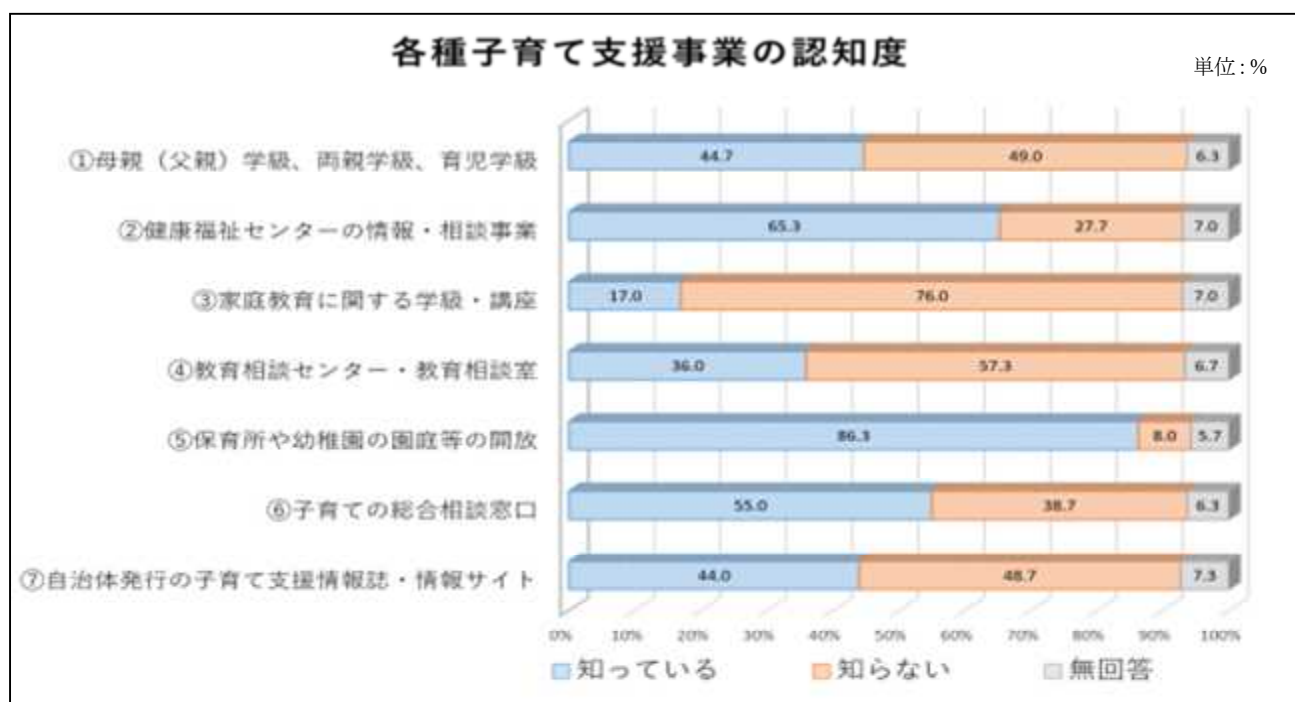
引用：佐川町障害者計画

4. 子どもの状況

■子育て支援事業の認知度・利用経験・利用意向

地域の子育て支援事業の認知度（知っている）は、「⑤保育所や幼稚園の園庭等の開放」が86.3%と割合が最も高く、次いで「②健康福祉センターの情報・相談事業」が65.3%となっています。

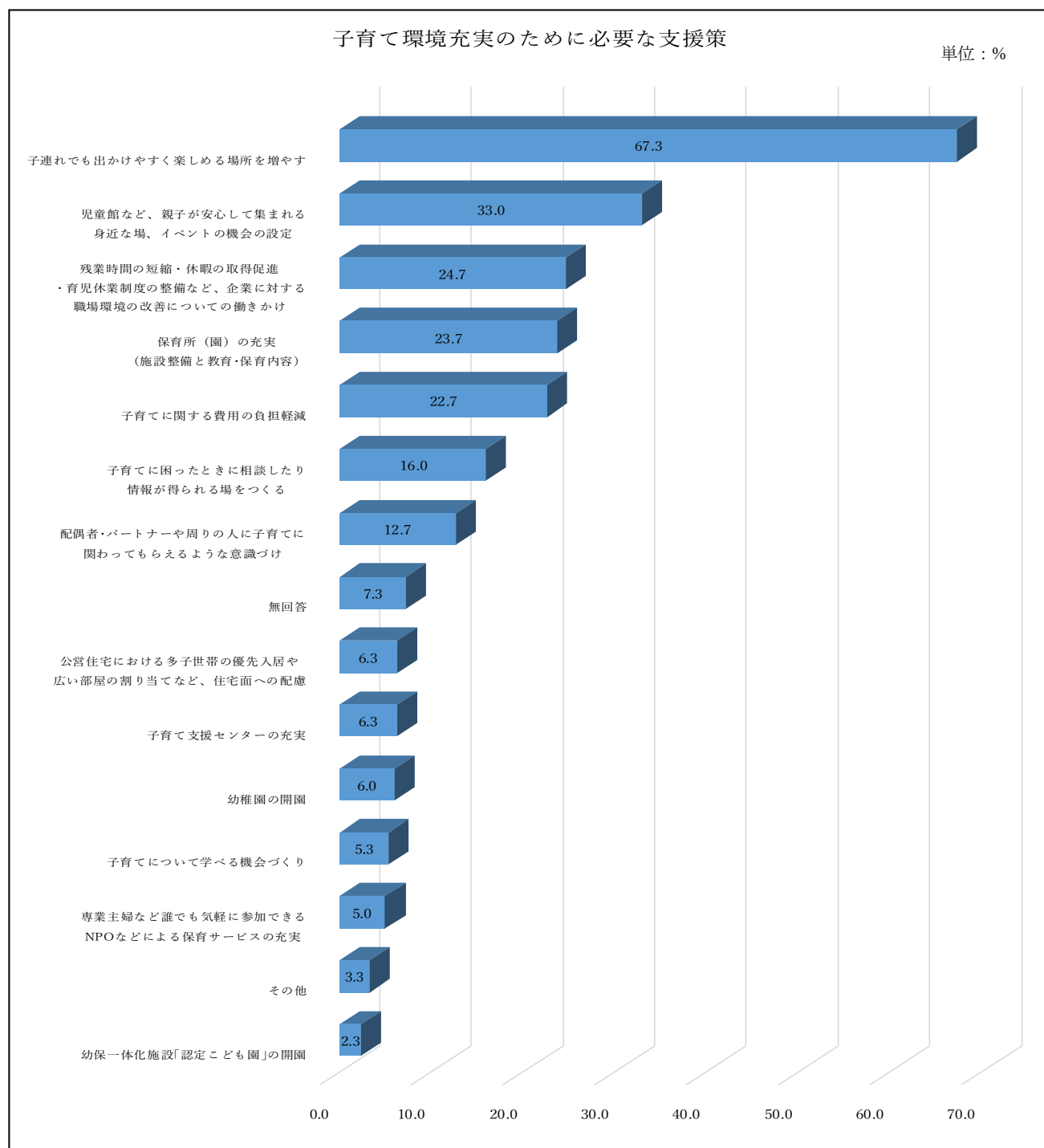
利用経験（利用したことがある）は、「⑤保育所や幼稚園の園庭等の開放」が、47.7%と割合が最も高く、次いで「②保健福祉センターの情報・相談事業」が20.3%となっています。



引用：第2期 佐川町子ども・子育て支援事業計画

■子育て環境充実のために必要な支援策

子育て環境充実のために必要な支援策は、「子連れでも出かけやすく楽しめる場所を増やす」が67.3%で割合が最も高く、次いで「児童館など、親子が安心して集まれる身近な場、イベントの機会の設定」が、33.0%「残業時間の短縮・休暇の取得促進・育児休業制度の整備など、企業に対する職場環境の改善についての働きかけ」が、24.7%となっています。



引用：第2期 佐川町子ども・子育て支援事業計画

5. その他

(1) 生活困窮者自立支援の現状

佐川町社会福祉協議会では、生活困窮者自立支援法が施行された平成27年から生活困窮者自立促進支援事業を実施しています。生活困窮者支援を実施する中で、その実態が明らかになってきました。生活困窮者は、単に経済的に困窮しているだけではない場合も多く、下記の特徴が伺えます。

○発達・知的・精神障害（境界層）や、成育環境に問題があるなど、何らかのハンディキャップを有している。

○ハンディキャップを有しているため、集団や地域社会からいじめや排除の対象となる。

○人間関係での傷つき体験を経て、人に恐怖や不安不信を感じ、関わりができなくなる。

○社会的孤立に陥り、社会にでられないため経済的にも困窮し、次第に生きる力を失う。

このように、決して本人の責任による生活困窮状態だけではなく、生きづらさにより孤立を余儀なくされて生活困窮に陥る場合も少なくないということがわかってきました。支援には金銭的支援や仕事の紹介などの物理面のみでなく、人との関わりの不安を取り除いたり、自己有用感を高めてもらえるよう精神的・情緒的な関わりも重要となってきます。

生活困窮者は地域とのつながりがなく社会的に孤立している場合も多いため、その存在に気づきにくいのですが、本町にも大勢の生活困窮者が存在しており、公的機関の支援のみでは不十分です。前節のとおり地域の力を借り、人との温かなつながりの中で支援して自立に導いていく必要があります。

生活困窮相談支援件数						
年度 件数	2018年 (H30)	2019年 (R元)	2020年 (R2)	2021年 (R3)	2022年 (R4)	合 計
新規相談	35	39	41	45	24	184
継続支援	-	4	10	17	22	22

相談を受け付けた件数、継続支援者数は、まだまだ実態の一部と考えられます。複数の課題を抱えている方が多く自立までには時間がかかるため、継続支援者数は年々増加しています。今後ますます多くの機関や地域との関わりが必要となります。



* 佐川町内のゴミ屋敷。孤立しているため隣近所でも実態を知っている人は少ない。

(2) あったかふれあいセンター事業の状況

あったかふれあいセンターは…

子どもから高齢者まで年齢や障害の有無にかかわらず、誰でも気軽に集い、必要なサービスを受けることができる【高知型地域共生社会】の拠点です。

住民同士がつながり、気にかけて合う地域づくりのため、『集い』『集い送迎』『訪問』『生活支援』『学び』『つなぎ』等の取り組みを実施しています。

■活動拠点

あったかふれあいセンターひまわり 【2009（平成21）年10月開所】

あったかふれあいセンターとかの 【2014（平成26）年5月開所】

あったかふれあいセンターくろいわ 【2018（平成30）年4月開所】

あったかふれあいセンター加茂の里 【2018（平成30）年4月開所】

あったかふれあいセンター夢まち 【2020（令和2）年4月開所】

■開所日時・・・月曜日から金曜日 午前9時から午後4時まで

■各あったかふれあいセンターの取り組みや特徴

<あったかふれあいセンターひまわり>

私たちは、自然豊かな尾川地区で高齢者から子どもまで誰もが集い、見守り、支え合う地域づくりの推進をしています。

集落活動センター「たいこ岩」での集いやイベントの開催、見守り訪問や生活支援などの地域へ出向いた活動を通して、皆様に『身近な存在』として頼ってもらえる“あったか”を目指しています。ぜひ、お気軽にお立ち寄りください。

「こんなことしてみたい！」というご要望もお待ちしています。

主な実施内容

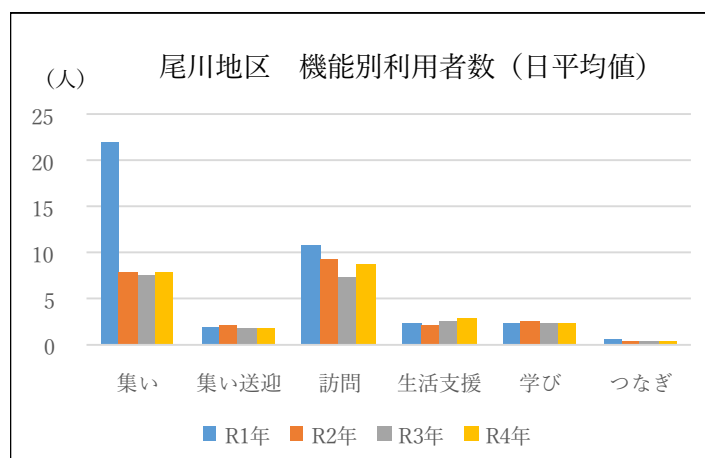
月：いきいき・かみかみ百歳体操

火：裁縫、ダイヤモンド体操

水：創作活動（月1回）、脳トレ（月1回）

木：3B体操（月1回）

金：自由に過ごす



＜あったかふれあいセンターとかの＞

あったかふれあいセンターとかのは「笑顔を集めて元気発信!!」をモットーに、利用者もスタッフも笑顔で過ごせる憩いの場です。地域の皆さんがお互い助け合い、つながる地域づくりを目指しています。

子どもから高齢者まで誰でも気軽に立ち寄れる場です。コーヒーを飲んだり、おしゃべりしたり・・・男性の利用者が多いのも特徴です。地域の方や利用者にボランティアになってもらうなど出番づくりもしています。また、お困りごと相談や地域の訪問を行い、見守りや各関係機関へのつながりも行っています。

集落活動センターと連携を図り、あったかふれあいセンターがより一層地域支えあいの拠点となるよう努めます。ぜひ遊びに来てください。

主な実施内容

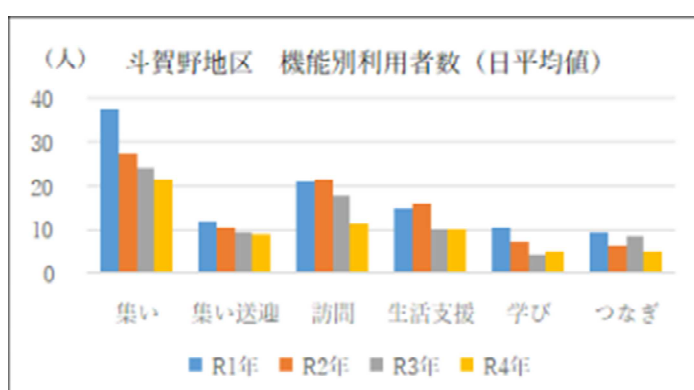
月：自由に過ごす日

火：いきいきかみかみ百歳体操

水：カレーの日や認知症予防ゲーム、学び
各教室

木：3B 体操、いきいきかみかみ百歳体操

金：カラオケの日



＜あったかふれあいセンターくろいわ＞

支援が必要な高齢者等、世代を超えた集いの場を提供するとともに必要・相談に応じて独居高齢者への配食サービスや生活支援・見守り訪問の事業を実施しています。

地域の集いの場として「楽しく健やかに」を合い言葉に笑顔あふれる地域に愛されるあったかふれあいセンターを目指しています。

美味しいコーヒーもあります。ぜひ遊びに来てください。

主な実施内容

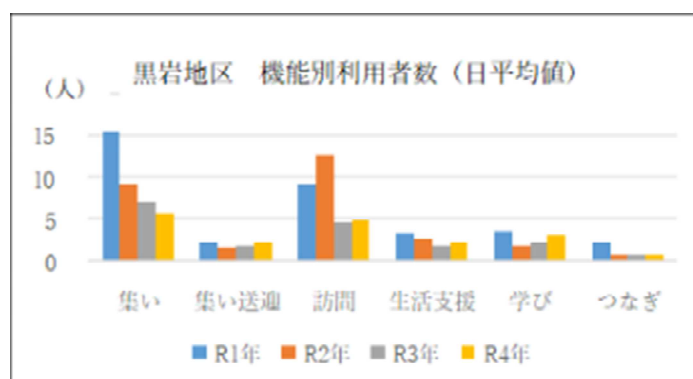
月：脳トレーニング等

火：いきいきかみかみ百歳体操

水：自由に過ごす日

木：喫茶の日

金：いきいきかみかみ百歳体操



＜あったかふれあいセンター加茂の里＞

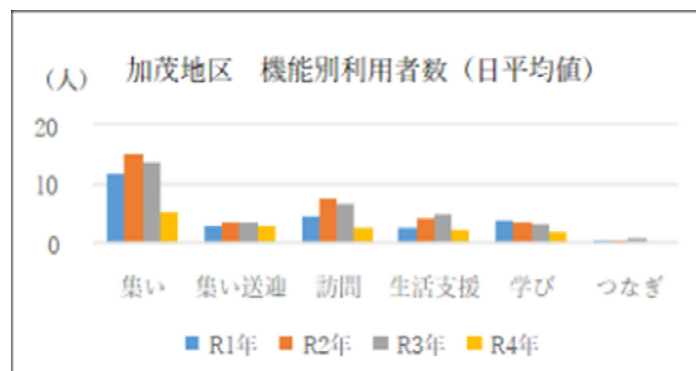
あったかふれあいセンター加茂の里は、子どもから高齢者まで世代を超えた地域の皆さんの地域福祉の拠点として、JR 土佐加茂駅の東側にある集落活動センター加茂の里内で活動しています。

誰もが気軽に立ち寄ってほっとできる集いの場や、百歳体操、出前講座、保育園児との交流など月間の行事予定に沿って楽しく笑顔で活動しています。あったかを利用される方で、送迎を希望される方にはスタッフが車で対応しています。

地域の皆さんの元気が私たちスタッフの力になります。元気を力に変えて、明るい笑顔あふれる地域づくりを目指していきます。

主な実施内容

- 月：趣味・ゲームの日
- 火：いきいきかみかみ百歳体操
- 水：いきいきかみかみ百歳体操、生活支援
- 木：3B 体操、出前講座、訪問など
- 金：認知症予防ゲーム、ボッチャの日、訪問など



＜あったかふれあいセンター夢まち＞

あったかふれあいセンター夢まちは佐川町の中心地にあり、お友達同士待ち合わせをしたり、買い物などのついでに気軽に立ち寄っていただいています。

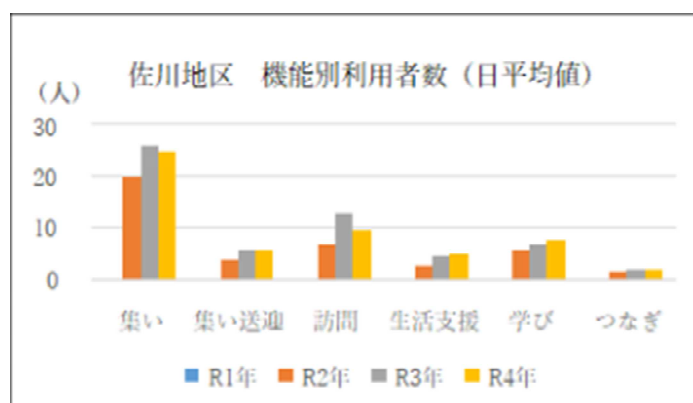
介護予防の百歳体操や健康出前講座は人気で新規の利用者につながっています。

あったかふれあいセンター夢まちを拠点に地域の方々がつながりを深め、子どもから高齢者まで誰もが安心して生きがいを感じて住み続けられる活動を目指しています。

地域にとってなくてはならない存在となれるよう心を込めて運営していきます。

主な実施内容

- 月：訪問の日
- 火：お買い物支援の日
 - ※第2：つぶやき喫茶
- 水：訪問の日
 - ※第3：健康出前講座
 - 第4：レクリエーション（認知症予防ゲーム）
- 木：健康マージャン・囲碁の日
- 金：百歳体操・将棋の日
- 毎月：月1回曜日未定：佐川を知ろう



(3) 災害時の要配慮者対策について

■避難行動要支援者名簿・個別計画書

2015（平成27）年度から名簿の作成を行い、年度ごとに更新しています。2023（令和5）年度は、避難行動要支援者として対象となる方が1,056名おり、その中で、避難支援等関係者に名簿情報を提供することに同意した方659名の名簿を登録し、関係者に提供しています。

個別計画書については、2017（平成29）年度から、自主防災組織と民生児童委員の協力を得て作成しています。

避難行動要支援者名簿を地域の自主防災組織や民生児童委員などの関係者に提供することや、個別計画書作成を通じて、日頃からの支え合いや見守りに取り組み、地域の防災力を高めるとともに地域コミュニティの強化を推進していく必要があります。

■福祉避難所

2023（令和5）年度末現在、福祉避難所については下記のとおりとなっています。

<福祉避難所>

施設名	受け入れ人数	
	福祉避難所対象者	対象者の付き添い
佐川町健康福祉センターかわせみ	10人	10人
佐川町デイケアセンターさくら荘	10人	10人
佐川町デイサービスセンター斗賀野荘	10人	10人
いこいの里たんぽぽ	20人	20人
さくら福祉事業所	20人	20人
合 計	70人	70人

<広域福祉避難所>

※土佐市・いの町・日高村・佐川町・越知町・仁淀川町が合同で設置・運営する福祉避難所

施設名	受け入れ人数	
	福祉避難所対象者	対象者の付き添い
高知県立日高特別支援学校	12人	12人

当町の災害時要配慮者数と福祉避難所の受け入れ最大人数及び被害想定を勘案すると、福祉避難所を利用できる方は、避難が必要な災害時要配慮者のうち20%弱で、残りの80%の方は、拠点避難所及び拠点避難所の福祉避難者スペースで避難生活を送る可能性が高いため、拠点避難所においても災害時要配慮者に対応することができるよう運営訓練を実施していく必要があります。